

今年はテーマを絞って開催する。市制5年目を迎え、みなさんの一体性と融和が図られてきた。

合併後5年間で50人職員を減らすという目標を立てたが既に70人減らした。職員が減ったことで市民サービスが悪くなったということがないように取り組んでいく。

来年には富士山静岡空港が開港するが、市民全員でもてなす心が大切だ。昨年からのマナーモデル運動も3,000人余りの市民に参加してもらっている。市の職員にもあいさつやワンストップサービスの徹底を図り、市民の先頭に立っていけるように指導していく。

また、韓国のウルチン郡やヤンピョン郡との友好都市提携の話も具体化している。韓国に限らず国内外の人が御前崎を訪れてくれるよう何か1つ観光の目玉をつくらうと考えている。御前崎の海を生かせるのではないかな。

御前崎市の元気を発信していくという中で市民に「自立・市民協働」の意識が芽生えてきた。「自分たちの街は自分たちでつくるんだ」という意識が感じられる。

スズキ㈱の26万台体制もいよいよ稼働し始めた。サブプライムローン問題などで景気後退が叫ばれているが、スズキの状況は順調な生産を続けていくとのことだ。関連企業も9社が比木地区に進出したいと話があった。しかし現在、農地法の手続きなどに時間がかかっていると聞いている。国、県に陳情しながら早期実現に向けて努力したい。スズキだけでなく多くの企業に港を利用してもらえようポートセールスにも力を注いでいきたい。国際貿易港として東南アジア方面へ4航路が就航している。御前崎港のコンテナ取扱量も5万TEUを超え、大きな伸びを示している。国や県からも今後10万TEUに届くようになると第2バースの建設もしていきたいという話も出ている。荷と航路の均衡を図りながら港の整備を進めてほしいと要望している。

また、企業の進出に伴い御前崎地区に下水道事業を行っていかなくてはならないと考えている。いつまでも御前崎地区と浜岡地区に格差があってはならない。格差のない「御前崎市という1つの街」にしていかななくてはならない。

さらに、企業が進出してくる中で、市民のみなさんの雇用の場となるとともに御前崎に定住してもらうために行政がサポートしていかななくてはならない。市民のため、定住してくれる人のために安心・安全の確保に力を入れていかなくてはならないと考えている。

500万キロワットのエネルギー基地「浜岡原子力発電所」の1・2号機は長い間定期点検中で止まっている。安心・安全を第一に信頼される発電所として運転を続けてほしいと思っている。プルサーマル計画、MOX燃料の使用についてもみなさまの理解をいただいて前に進んだ。これらの情報もこまめに発信し、わかりやすい形で進めていくよう呼びかけていく。原子力発電はクリーンなエネルギーとして地球温暖化防止にも大きく寄与するものである。

東海地震に備えて御前崎沖に海底地震計が観測を開始した。東海、東南海地震に非常に役に立つだろう。東海地震は100年～150年周期だといわれている。すでに154年が経過した。市でも対策をとっているが限界がある。震災には「自分の命は自分で守る」という原点に立ち返ってみなさまの家庭、地域で自助、共助の再確認をしてほしい。まず自分・家族そして近所・班という具合に、近隣5軒10軒の住民が大丈夫か、高齢者世帯はどうかなどのチェックが必要となってくる。他地区からは被災者のいない世帯は青旗を立てるなどの提案があった。

市職員のあいさつが悪いということをたびたび耳にする。部長会議を開き、お客様に対して気

持ちよくあいさつができるよう、窓口だけでなく全員であいさつ運動に取り組んでいる。皆さんに満足いただけるようさらなる徹底を図りたい。

御前崎の観光はどのように進めていくか。富士山静岡空港の開港を控えて、いかにこの地の文化・資源を発信していくか。ウィンドサーフィンをする方に聞いた話では御前崎の海はハワイの海に似ていてすばらしい。これを生かさない手はないでしょうという。やはりひとつは海だろう。

自立と市民協働の中で、市内各地で荒廃する農地は「このままでいいのか、何とかしていこう」というみなさんの熱意が強く感じられる。繁殖牛の放牧による雑草の除去、そこへ菜種を植えて油を搾って学校給食へ使うとか、サツマイモを植えて焼酎などの特産品開発、販売につなげるなどに取り組んでいただいている。

団塊世代が土いじりや家庭菜園を持ちたくても農地法の規制にかかって農地を持っていないなどという話も聞く。荒廃を防ぐにはやはり人の手が入ること。就農者の高齢化や後継者不足を補うことができない限り根本的な解決策とは言えない。食の安全にもつながる施策として荒廃農地を減らすよう、しっかりとした対策を立てていかなければならないと思っている。

防砂林が松くい虫に侵されたことで「1人1木運動」が行われた。「地域の力で地域を守っていく」という意識の芽生えに感謝している。

病院は医師不足が深刻な中、病院のあり方検討会を発足した。また、救急問題を始め病院と開業医との連携を密にしていく。全国的に病院は入院が短くなって出されてしまう状況。市総合健康福祉センター3Fに介護度の重い人たちが利用している療養施設54床、2Fには老健施設50床があるが、それに加えて市立御前崎総合病院では60日間、最高180日間、回復期リハビリテーション病棟を来年度早々から36床運営する予定。回復期に重点を置く一方で、介護予防など健康な体づくりをすることが高齢者福祉につながる。高齢化社会への対策を進めていく。

エコカーやマイバック推進など、市としても地球温暖化対策に取り組んでいきたい。

ごみ問題にしても笠名のごみ処理場は年間2億円ぐらいの補填をしていかないとごみの炉がもたない状況にあるということだ。これから第3回の検討委員会を開くが、今後エリアや手法も含めてどういう形でごみ処理をしていくかも相談しながら進めていきたい。

火葬場も菅ヶ谷の皆さんに協力してもらってきたが、増築は厳しい状況。これらの方向性も皆さんの知恵やアイデアを借りて論議していきたい。

教育は中二支援体制をとっているが来年度からは中三支援も考えている。教育支援員など制度も充実し、御前崎市の教育は県からも高く評価されている。

働く保護者と児童を支える放課後児童クラブなどへもみなさまの意見を聞きたい。

少子化問題についても今年、女性限定のタウンミーティングを開く。女性の立場からの意見を参考にしながら対策を考えていきたい。

子どもは御前崎の宝。子どもたちをより光り輝かせるために積極的に取り組んでいきたい。

初の女性老人クラブの会長や教育委員、民生委員、市議会も女性議員が2人になるなど女性の進出も盛んになってきている。喜ばしいこと。市役所も女性職員の管理職登用などを積極的に進めていきたい。男女平等に魅力のある御前崎市を考えていく。

住んでみたい、住んでよかったと言われる御前崎市の将来のために、このタウンミーティングで皆さんの意見をいただき、市政に反映していきたい。